

桂川・木津川・宇治川圏域河川整備計画検討委員会 第7回資料 (宇治川圏域及び圏域内河川の概要)



宇治川派流をゆく十石船
(蓬来橋付近)

平成23年8月2日
京都府

目次

1. 圏域の概要

- ・ 位置、諸元 1
- ・ 地形、地質 2
- ・ 気候、植生 3
- ・ 水質 4
- ・ 人口、土地利用 5
- ・ 交通 6
- ・ 歴史、文化 7

2. ブロック別の概要

- ・ ブロック区分 9
- ・ 宇治川下流右岸ブロック 10
- ・ 宇治川下流左岸ブロック 13
- ・ 宇治川上流ブロック 15

3. 既往災害

- ・ 既往災害 17

4. 治水の現状

- ・ 治水事業の経緯 18
- ・ 主な河川の改修状況 19

1. 圏域の概要（位置、諸元）

圏域の位置

○宇治川圏域は、京都府の南東に位置し、京都市南部、宇治市、宇治田原町、城陽市、八幡市、久御山町、和束町などを流れる宇治川の支川から構成される。

○圏域内の府管理河川は、宇治川に流入する、33河川である。



圏域の諸元

- 面積は約226km²で、京都府の全人口の約27%が圏域内に居住している。
- 圏域内の、河川の府管理延長の合計は、約110kmである。

項目	宇治川圏域内
圏域面積	約226km ²
府管理河川延長の合計	約110km
河川数	33
人口	約72万人（平成21年現在）
関係市町村	京都市（山科区、伏見区）、 宇治市、城陽市、久世郡（久御山町）、 綴喜郡（宇治田原町）

1次支川			2次支川			3次支川			4次支川		
河川名	流路延長(km)	流域面積(km ²)	河川名	流路延長(km)	流域面積(km ²)	河川名	流路延長(km)	流域面積(km ²)	河川名	流路延長(km)	流域面積(km ²)
古川	12,100	54.7	井川	3,300	5.2						
東高瀬川(直)	(3,273)	10.1	名木川	1,600	6.5						
東高瀬川	2,836										
宇治川派流	2,727	---	七瀬川	3,327	7						
山科川(直)	(1,975)	52	濠川	1,600	---						
山科川	9,930										
			堂の川	1,200	1.6						
			合場川	1,053	3.5						
			旧安祥寺川	4,836	7.5						
						西野山川	1,600	1.7			
									西野山川支川	1,000	---
			安祥寺川	2,895	4.3						
						藤尾川	180	---			
			四宮川	2,300	6.7						
弥陀次郎川	2,000	1.3									
岡本川(直)	(290)	---									
戦川	1,700	3.5	新田川	1,100	1.6						
志津川	9,000	8.8									
田原川(直)	(1,800)	38	門口川	300	1						
田原川	8,415			犬打川	4,920	13.4					
						符作川	1,300	1.7			
						滝口川	1,300	3.3			
			糠塚川	2,050	2						
			大導寺川	2,200	3.3						
			禪定寺川	2,445	3.7						
			石詰川	610	1						
寒谷川(直)	(2,900)	---									
笠取川	7,200	8.7									
大石川(滋賀県管理)	---	---									
			奥山田川	4,200	3						
						大福川	3,500	2.8			
						里川	1,800	2			
9河川			17河川			6河川			1河川		

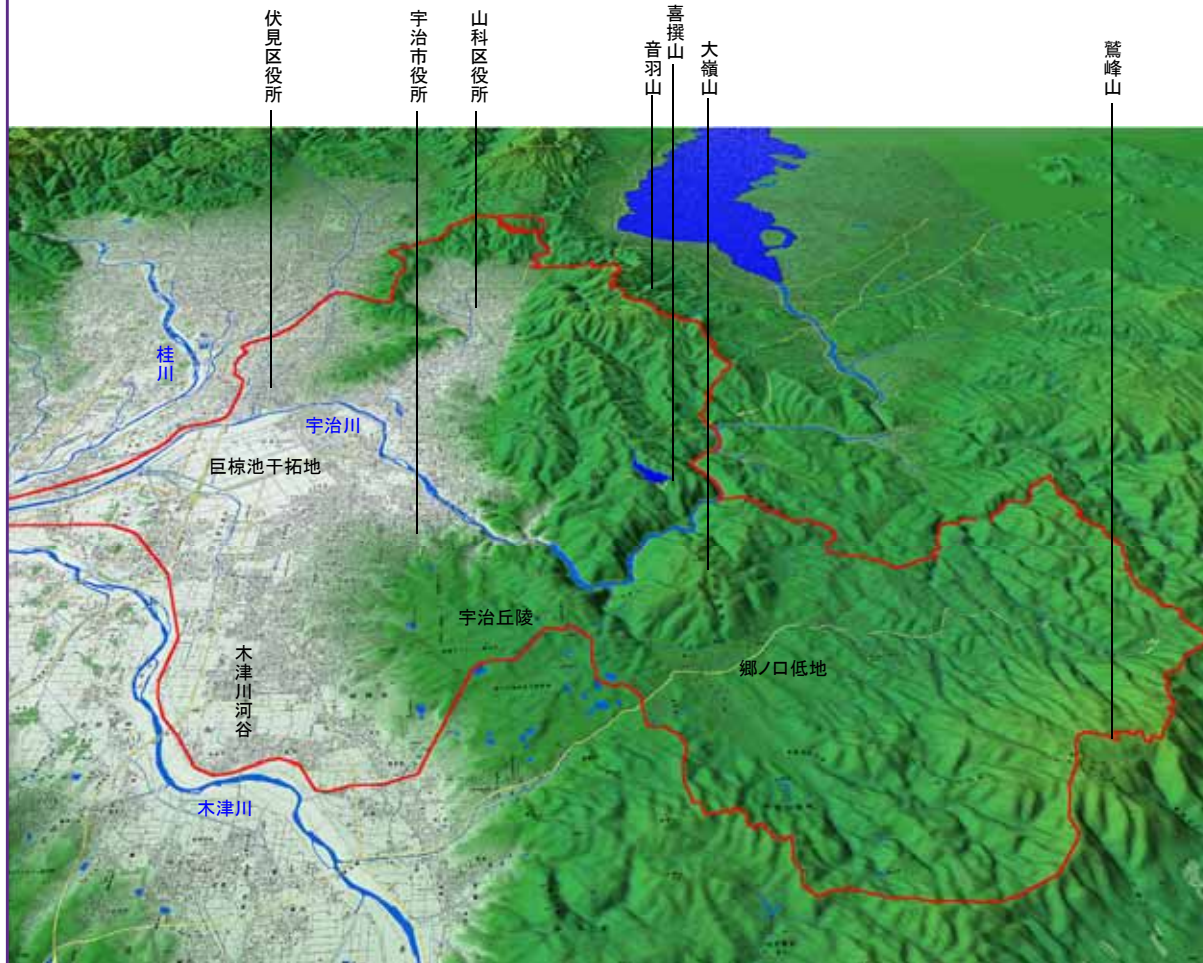
<河川位置図>



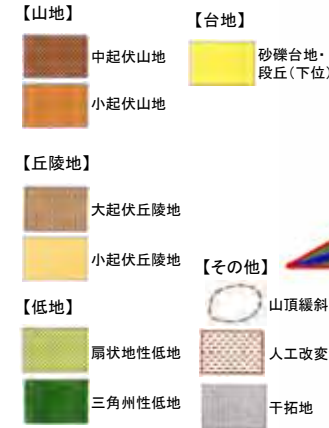
1. 圏域の概要（地形、地質）

圏域の地形・地質

- 京都盆地の西南部、山科盆地の南部及び木津川河谷に位置し、丘陵部、山地及び宇治川、木津川によって形成された沖積低地からなる。
- 圏域の中央部を宇治川が貫流しており、京都盆地の西南部、木津川河谷の北端である巨椋池干拓地、山科盆地、東部の醍醐山地からなる。
- 醍醐山地は、音羽山、喜撰山、宇治川の先行谷を挟み、大峰山、郷ノ口低地で終わる。



【宇治川流域の地形分類図】

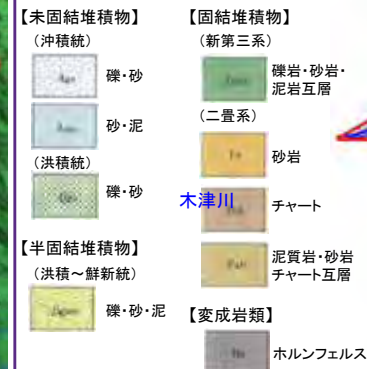


出典：土地分類図：京都府（20万分の1）S51発行（S48-S49調査）より

圏域の地質

【宇治川流域の表層地質図】

- 圏域西部の低地は、砂・泥からなる。
- 圏域東部の山地部の地質は中・古生層が大部分を占める。砂岩層が多く、砂岩・チャート・泥質岩等の礫からなる。



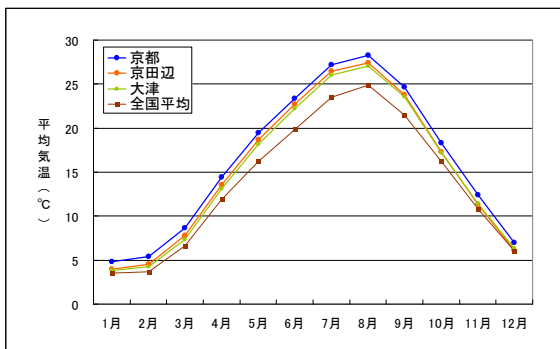
出典：土地分類図：京都府（20万分の1）S51発行（S48-S49調査）より

1. 圏域の概要（気候）

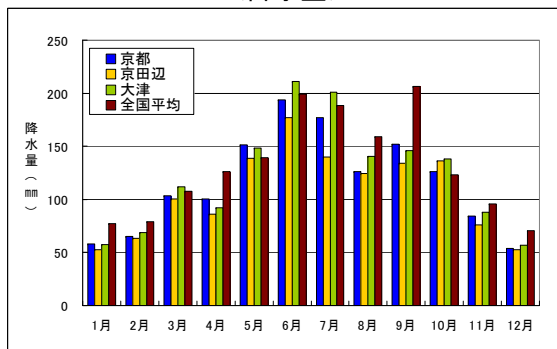
圏域の気候

- 年間降水量は、京都、京田辺、大津で約1,300～1,500mmで、全国平均約1,600mmの8～9割程度である。
- 瀬戸内海気候に属し、いずれの観測所でも冬の降水量は少なく春から梅雨の降水量は比較的多い。
- 年平均気温は、京都で16℃、京田辺、大津で15℃と、全国平均より若干高い。

<年平均気温>



<降水量>



<京都府の気候区分>



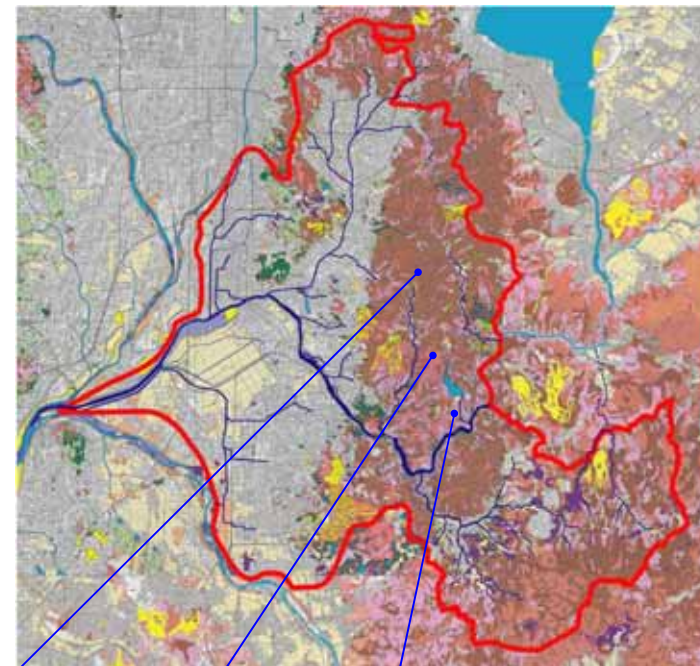
※平成11年～平成21年のデータより算出

出典:「日本地誌13 1976」
「日本地誌14 1973」

- III d2・京都盆地。瀬戸内海気候域にはいる。暑さは府域でもっときびしい。冬は降雪が少なく晴天の日が多い。年降水量は府域では最小である。
- IV b2・丹波高原東部。山がちで冷涼な気候区である。各月および年平均気温はつねに府域で最低で、1月の平均気温は1～2℃、年平均気温は12～13℃である。夏は過ごしやすいが、冬は寒く、また降積雪量が多いことで日本海側の気候区に近い性質をもつ。
- IV d・京都府南東端の笠置山地。滋賀県南部へつづく低い山地で、気温も京都盆地に比べると低い。丹波高原東部ほどの寒暑のきびしさはみられない。降水量は京都盆地よりやや多くなる。
- IV c・琵琶湖西半地域。冬比較的温暖く、夏は高温になる。北部ほど冬は降水量が多い。

圏域の植生

第6回・第7回 植生調査(2001～2004) 環境省HPより



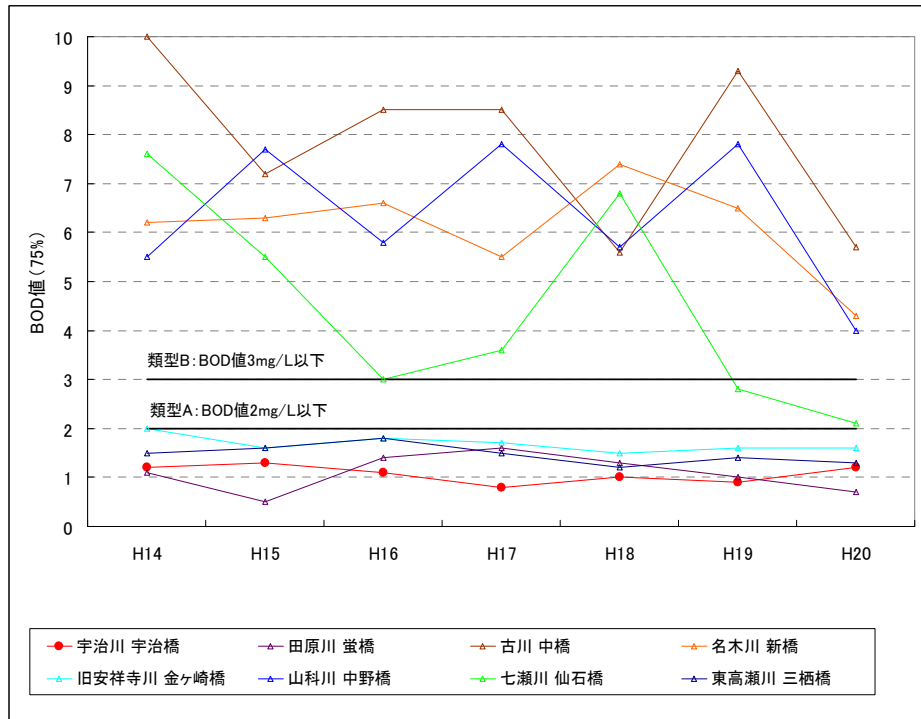
- | | | | |
|--------------|--------------|--------------------|---------|
| スギ・ヒノキ・サウラ植林 | モチツツジ・アカマツ群集 | アベマキ・コナラ群集 | ヨシクラス |
| ゴルフ場・芝地 | 竹林 | 水田雑草群落 | ヤナギ高木群落 |
| カナメモチ・コジイ群集 | クズ群落 | 果樹園 (茶畑、桑畑、苗木畑も含む) | 市街地 |
| | | | 造成地 |

- 里山など全体的にコナラなどの温帯性樹種が多く、奥地に行けばミズナラなどの冷温帯性樹種が出現し、尾根筋にはアカマツも多く繁茂している。
- また、スギやヒノキの人工林も多く、醍醐山地等の沢沿いを中心にスギが、尾根筋を中心にヒノキが広く植栽されている。
- 森林に対する関心が高く、京都府下では比較的管理されている地域ではあるが、近年、湿った雪による倒木被害が発生している。

1.圏域の概要（水質）

水質

- 対象河川で水質環境基準の類型指定をされている水域はない。
- 代表的な水質指標であるBOD値は、2~3mg/Lを越える河川では、経年的に変化が激しく一定の傾向は見られない。2~3mg/Lを下回る河川では、経年的に横ばいで概ね良好な水質を維持している。
- 下水道は京都市でほぼ普及しているが、他の市町では近年、普及率の向上が目覚ましい。



※1 出典：公共用水域及び地下水の水質測定結果(京都府HP)

※2 参考までに、類型BおよびAの基準値を示す。

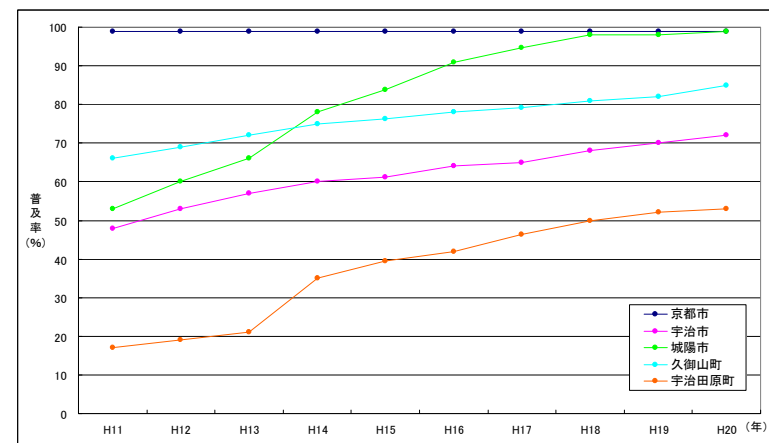
【BODとは】

水中の好気性微生物の増殖や呼吸によって消費される酸素量のことです。水の有機物汚染が大きければその有機物を栄養分とする微生物の活動も活発になり、微生物によって消費される酸素の量も増加します。BODが大きければ水中の有機物汚染が大きいことを示すため、水の有機物汚染の指標とされています。



出典：公共用水域水質測定結果H20(京都府HP)、
大気、水質等環境調査結果H20(京都市HP)

水質汚濁に係る環境基準の類型指定と水質測定地点の位置

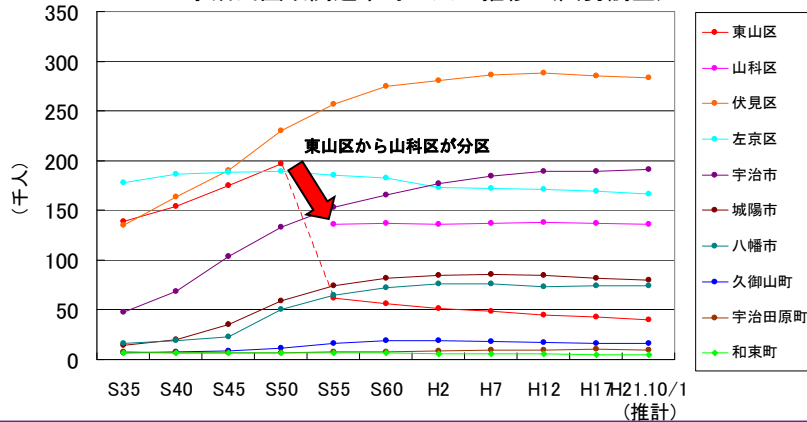


下水道普及率(処理区内人口の比率)

1. 圏域の概要（圏域の人口、土地利用）

圏域の人口

宇治川圏域関連市町の人口推移（国勢調査） 出典：京都府HP



○伏見区、宇治市、城陽市、八幡市では、昭和40年頃から大幅に増加し、近年横ばい傾向で推移している。

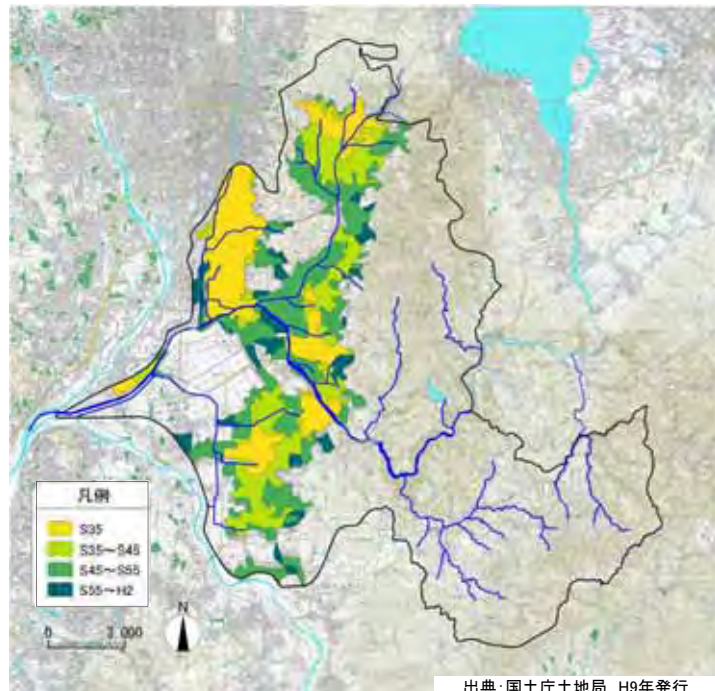
圏域の土地利用

○交通網の発達により京都、大阪のどちらへも移動しやすく、高度成長期には著しく市街地が進展している(山科川・古川流域など)。

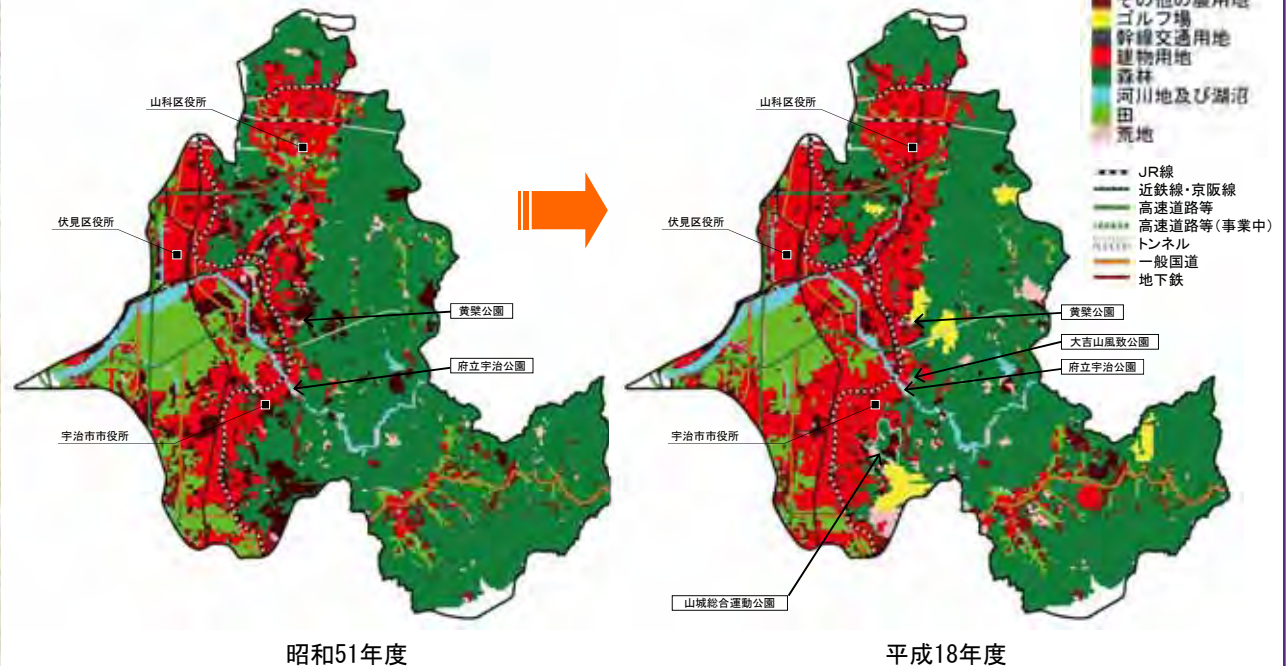
○宇治川の東部および南部の山林は、市街地に隣接した良好な自然環境であり、貴重な緑の空間を形成している。



住宅地と竹林が隣接(京都市山科区)



宇治川流域内の市街地の変遷

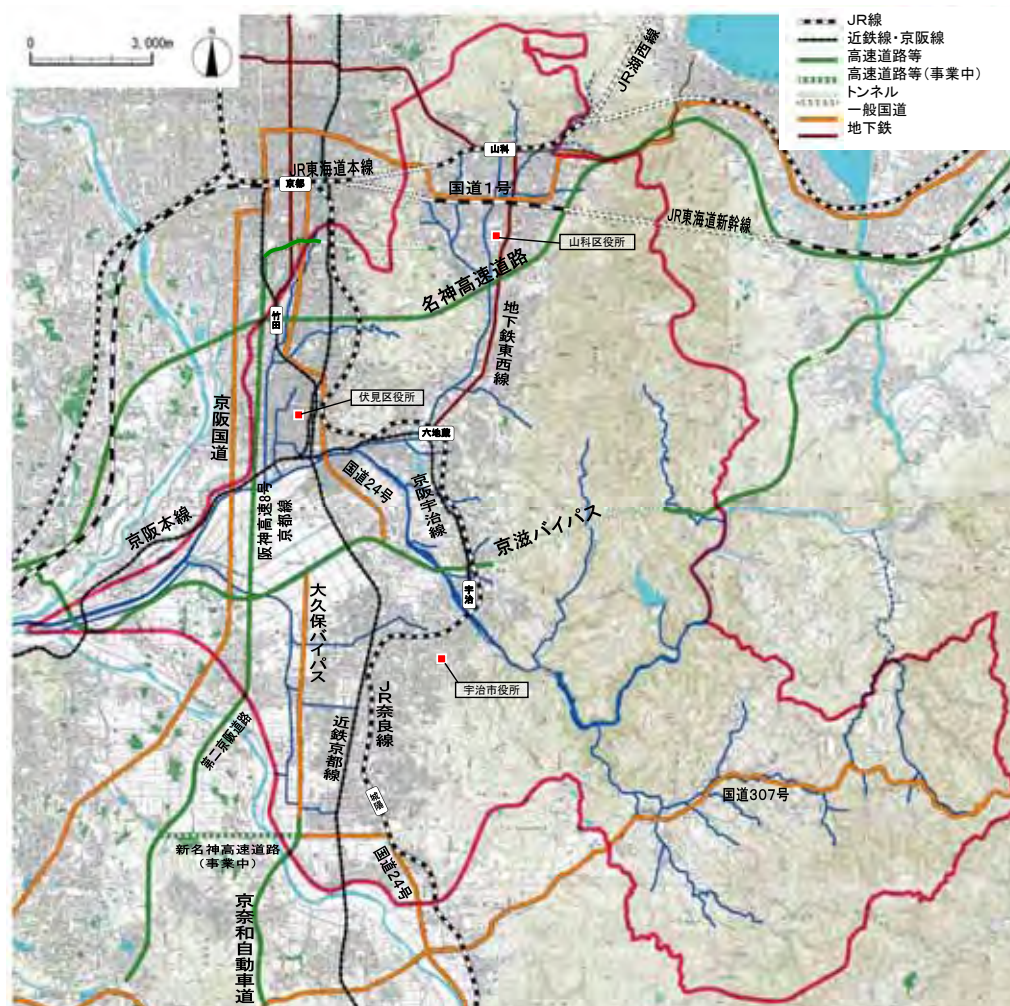


宇治川流域内の土地利用

1. 圏域の概要（圏域の交通）

圏域の交通

- 大阪と滋賀・三重・愛知を結ぶ幹線（名神高速道路、京滋バイパス、国道1号、国道307号、東海道新幹線、JR東海道本線など）が東西に横断している。
- 圏域の西部を中心に、京都と奈良・大阪を結ぶ多くの幹線（京奈和自動車道、国道24号、JR奈良線、近鉄京都線、京阪本線など）が南北に縦断している。
- 圏域を南北に貫く第二京阪道路に、阪神高速8号京都線（H23.3.27開通）が接続し、山科地区まで伸びている。
- 名神高速道路の混雑解消を目的とした新名神高速道路の建設事業が進められている（八幡～城陽間）。



1. 圏域の概要（歴史・文化）

多くの人々が訪れる宇治

- 平安時代は、宇治周辺は旧都へ通じる奈良街道が賑わう。都から半日行程の風光明媚な特徴から、藤原摂関家をはじめとする貴族らの京都近郊の別業(別荘)地となり、源氏物語・宇治十帖の舞台となった。藤原摂関家ゆかりの宇治陵(木幡墓所)も残る。
- 宇治川の両岸には神社、寺院、景勝地が点在し、宇治川の水とそれを取りまく山々の緑が一体となって独特の風景を形成。江戸時代には一般の人々も宇治を訪れるようになる。



平等院鳳凰堂(関白藤原道長が左大臣源重信の婦人から譲り受けた別業を、その子頼通が1052年に仏寺に改め、平等院とした。鳳凰堂は1053年に完成し、国宝及び世界文化遺産に指定)

出典: 宇治市HP <http://www.city.uji.kyoto.jp>



宇治名所図(六曲一双の屏風の一隻。宇治川兩岸の名所、歌に詠まれた紫舟、晒し、水車などを組み合わせた図)

出典: 「宇治川十帖」(宇治市歴史資料館)



山科川流域の寺院

- 山科川流域は、京都盆地と近江盆地の中間に位置する東海道の要衝。古くから都との繋がりが強く、7世紀には天智天皇陵がつくられ、平安遷都後には多くの寺院が建てられた。

《主な寺院および開山年》

- ・安祥寺(848年)
- ・勤修寺(かじゅうじ・900年)
- ・曼荼羅寺(後の随心院、991年)
- ・醍醐寺(874年): 豊臣秀吉によって醍醐の花見(1598年)が催された。
- ・毘沙門堂(前身の出雲寺・703年): 慶長年間(17世紀)に復興



毘沙門堂の紅葉

出典: 京都市HP

<http://www.city.kyoto.lg.jp/>

時代の転換期の舞台

- 宇治・伏見は、川と道が交わり、巨椋池が広がる水陸交通の要衝の地。そのため、しばしば合戦場となり、時代の転換期の舞台となった。
- 豊臣秀吉の晩年の居城となった伏見城があり、伏見はその城下町として発展した。《合戦・戦いなど》
- 1180年 宇治橋合戦 以仁王、源頼政らが平家打倒のため挙兵するが失敗
- 1183年 宇治川の戦い(宇治川の先陣争い) 源義経軍が木曾義仲軍を破る
- 1221年 承久の乱(宇治橋合戦) 鎌倉幕府方が京都公家政権方を破る
- 1868年 鳥羽・伏見の戦い(戊辰戦争) 薩摩藩長州藩による新政府軍が旧幕府軍を破る
- 《その他》
- 1582年 御生涯御艱難の第一(伊賀越) 本能寺の変に際して、堺に居た徳川家康が三河へ避難するため宇治田原を抜けた
- 1866年 寺田屋事件 坂本龍馬を伏見奉行方が襲撃した



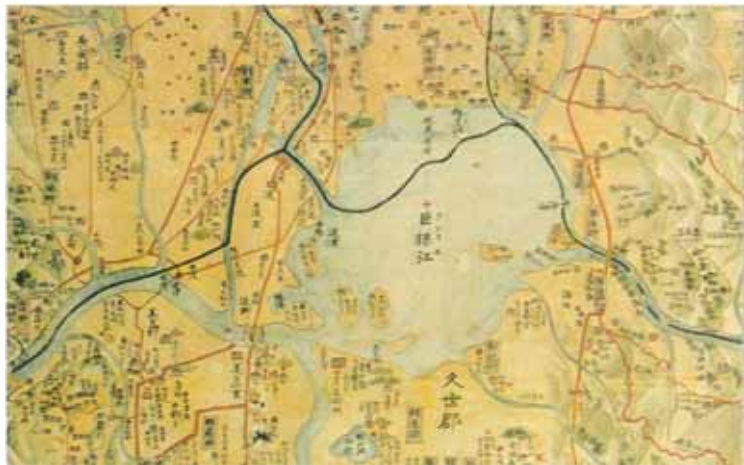
伏見城と城下町

出典: 伏見御城柳井屋敷取之絵図

1.圏域の概要（歴史・文化）

巨椋池の変遷

○巨椋池は、かつて、宇治川、木津川、桂川、鴨川などが集まる湖だった。安土桃山時代の太閤堤による宇治川の流路変更により、明治期の河川改修による完全分離を経て、昭和初期に干拓され農地となった。



巨椋池(古代)【山城国古図(一部)】
出典:「巨椋池」(近畿農政局巨椋池農地防災事業所)



古代～秀吉伏見城築城以前



秀吉伏見城築城～江戸期



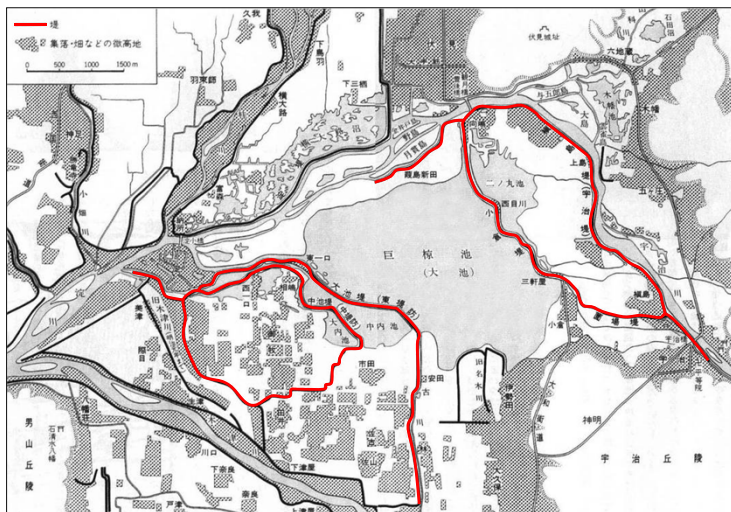
現在



昭和初期

太閤堤

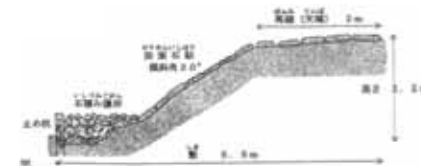
○「太閤堤」は、豊臣秀吉が伏見城築城に伴い、宇治川の流路つけ替えに関係して築いた堤防。伏見港の水位が保たれ、同時に伏見に物流が集中するように堤防を築き、宇治川の流れをほぼ現在の位置に変えた。



巨椋池をめぐる堤【明治期の地形図より】
出典:「宇治川護岸遺跡(太閤堤)の発掘」



堤の発掘調査現場(平成19年)
宇治橋下流約400mの宇治川右岸
出典:「宇治川十帖」(宇治市歴史資料館)



堤の横断形状のイメージ
出典:「宇治川護岸遺跡(太閤堤)の発掘」

伏見港・高瀬川の舟運

○伏見港は「伏見の浜」と呼ばれ、伏見城が築かれた安土桃山時代から第2次世界大戦まで、淀川舟運の拠点だった。特に、江戸時代には、大坂～京都の中継点として三十石舟や高瀬舟などが往来し、港町として栄えた。

○江戸時代初期には角倉了以により高瀬川が開削され、京都の二条から伏見との間を結んだ。(昭和10年洪水後の鴨川改修に伴い、現在は分断)

○明治時代には琵琶湖疎水が建設され、濠川に合流する。



高瀬川の概要平面図



大坂～伏見を運航していた三十石船
出典:「都名所図会 巻五」



現在の東高瀬川(旧高瀬川)